

雪氷写真館⑫ 「ヒマラヤの『恐ろしい』夕焼け」



写真1. 手前の大きい山体がヌプツェ。ヌプツェの左肩の赤く光って小さく見えているのがエベレスト。(ゴラクシェップより)



写真2. 中央の平らな雪面に突き出ているのがテントの頭。(リンテンBCにて)

ヒマラヤの「恐ろしい」夕焼け

日本では「夕焼けは好天気の子ざし」ということわざがあるが、ネパールヒマラヤではきれいな夕焼けを見ると大雪が降ることがある。写真1は1995年11月に大雪をもたらしたサイクロンが来る前日の異様にきれいな夕焼けである。「すごい夕焼けだねえ。」などと赤く染まった雲や山肌を鑑賞していたら、その晩テントがつぶれるほどの積雪に見舞われた。この大雪によりヒマラヤ各地でおこった雪崩のためトレッカーが多数遭難した。この夕焼けは、青木輝夫氏（気象研）の説明によると以下のようなになる。「サイクロンの上層では発散場になっており、氷晶からなる上層雲が外側に広がっている。この夕焼けはネパールから見て南西方向からサイクロンが北上してきたときの晴天日の夕方、ちょうどその上層雲が西の空にかかり始めたときの現象と考えられる。このとき上層雲のさらに西側には雲がなく、大気中の長いパスを通過して赤い光だけが残った太陽直達光が上層雲に当たり、非常に赤い夕焼けが見えたと考えられる。」写真2は天気が回復してから、観測のために張っていた3つのテントを回収に行ったときの風景。雪に埋もれたテントの先がかるうじて一つだけ見えている。この周りに完全に埋もれてしまったテントが他に2つ張ってあった。この後、つぶれたテントを掘り出し必要なものを回収したが、大雪のため荷運びのヤクを連れてゆけず、テントは泣く泣く放棄せざるをえなかった。

参考：山田知充 他，1996：ネパール・クンブ地方
「1995年パンガ雪崩」報告。雪氷，58，145-155.

坂井 亜規子 会員（名古屋大学大気水圏科学研究所）撮影